

保育の心理学

平成28年度
後期 10問

問1 次の説を提唱した人物として正しいものを一つ選びなさい。

生涯発達心理学とは、受胎から死に至る過程における行動の一貫性と変化を研究するものである。研究の目的は、生涯発達の一般的原理、発達における個人間の差異性と類似性、発達の可塑性とその限界等を明らかにすることである。

1. マーラー (Mahler, M.S.)
2. レヴィン (Lewin, K.)
3. メルツォフ (Meltzoff, A.)
4. バルテス (Baltes, P.B.)
5. ハヴィガースト (Havighurst, R.J.)

回答

4

解説

選択肢の人物それぞれが提唱した説や主な著書は次の通りである。

マラー・ 分離個体化理論

レヴィン・ 場の理論

メルツォフ・ 新生児模倣

バルテス・ 生涯発達心理学

ハヴィガースト・ 『人間の発達課題と教育』

よって正しいものは4である。

問2 次の文のうち、「保育所保育指針」第2章の2「発達過程」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

子どもの発達過程は、おおむね次に示す (a) 8つの区分としてとらえられる。ただし、この区分は、同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの (b) 発達過程としてとらえるべきものである。また、様々な条件により、(c) 子どもの家庭の問題や保育所の生活になじみにくいなどの状態が見られても、保育士等は、子ども自身の力を十分に認め、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた (d) 適切な援助及び環境構成を行うことが重要である。

(組み合わせ)	a	b	c	d
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

回答

1

解説

保育所保育指針 第2章の2 「発達過程」には次のようにある。

子どもの発達過程は、おおむね次に示す8つの区分としてとらえられる。

ただし、この区分は同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達過程としてとらえるべきものである。

また、様々な条件により、子どもに発達上の課題や保育所の生活になじみにくいなどの状態が見られても、保育士等は、子ども一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境構成を行うことが重要である。

よって正しい組み合わせは1である。

問3 次の文は、エリクソン（Erikson, E.H.）の発達理論の記述である。（ A ）～（ D ）にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

エリクソン（Erikson, E.H.）の（ A ）では、生物としてのヒトがある規則性をもって（ B ）に発達する一方、社会的に生きる人間がさまざまな心理・社会的な（ C ）に遭遇し、それを解決しながら発達するとみなされる。つまり、各発達期に固有な課題が、（ D ）な概念として提起され、肯定的概念が否定的概念を上回ることで、その課題を乗り越え心理・社会的に発達すると考えられている。

【語群】

	(組み合わせ)	A	B	C	D
ア,ライフコース論 イ,漸成的 ウ,ストレス エ,対極的	1	ア	イ	ウ	エ
オ,ライフサイクル論 カ,加速的 キ,危機 ク,両義的	2	ア	カ	キ	エ
	3	オ	イ	ウ	ク
	4	オ	イ	キ	エ
	5	オ	カ	ウ	ク

回答

4

解説

エリクソンはライフサイクル論（漸成論）を提唱した。生物が、漸成的に発達する一方、さまざまな心理・社会的な危機に遭遇しながら発達するとみなし、ライフサイクルを8つの危機的段階に分類した。各発達段階で現れてくる課題を、対極的な概念で表した。よって正しい組み合わせは4である。

エリクソン（Erikson, E.H.）の（ライフサイクル論）では、生物としてのヒトがある規則性をもって（漸成的）に発達する一方、社会的に生きる人間がさまざまな心理・社会的な（危機）に遭遇し、それを解決しながら発達するとみなされる。つまり、各発達期に固有な課題が、（対極的）な概念として提起され、肯定的概念が否定的概念を上回ることで、その課題を乗り越え心理・社会的に発達すると考えられている。

問 4

保育所に通っている子どもの場合、次のBronfenbrenner (U.) の生態学的システムに関する【Ⅰ群】の語句と【Ⅱ群】の説明を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

1. マクロシステム
2. メゾシステム
3. マイクロシステム
4. クロノシステム
5. エクソシステム

【Ⅱ群】

- ア. 家庭と保育所の関係
- イ. 保護者の職場
- ウ. 保育所
- エ. きょうだいの誕生
- オ. 日本文化

(組み合わせ)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ウ | オ | エ | イ | ア |
| 2 | エ | ア | ウ | オ | イ |
| 3 | エ | オ | ウ | イ | ア |
| 4 | オ | ア | ウ | エ | イ |
| 5 | オ | ア | エ | ウ | イ |

回答

4

解説

Bronfenbrennerは人間を取り巻く環境を入れ子構造としてとらえた。構造の中心を子とし、外に向かって次のようになる。

1. マクロシステムー日本文化
2. メゾシステムー家庭と保育所の関係
3. マイクロシステムー保育所
4. クロノシステムーきょうだいの誕生
5. エクソシステムー保護者の職場

よって正しい組み合わせは4である。

問5

次の文は、心の理解に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

他者が外界について本当だと思っていることを正しく推測できるようになる「心の理論」を測定するために、(A) がよく用いられ、(B) に獲得することが示されている。しかし、この「心の理論」の前駆体の一つとして、(C) 頃に成立するコミュニケーションが注目されており、保育者との(D) を通した触れ合いが基盤とされる。

【語群】

ア, 3つ山課題 | イ, 5歳以降 | ウ, 誤信念課題 | エ, 4歳以降
オ, 共同注意 | カ, 生後1歳半 | キ, 生後9か月 | ク, ふり遊び

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	ア	イ	カ	オ
2	ア	イ	カ	ク
3	ウ	イ	キ	ク
4	ウ	エ	キ	オ
5	ウ	エ	キ	ク

回答

4

解説

「心の理論」を測定するためによく用いられるのは、誤信念課題である。

誤信念課題は、ある事象を見た人とそれを見ていない人との心的な差異がどのようなものかを答える課題であるが、それを獲得できるのは4歳以降である。

「心の理論」の前駆体の一つとして、生後9か月頃に成立するコミュニケーションが注目されており、保育者との共同注意を通じた触れ合いが基盤とされる。

よって正しい組み合わせは4である。

他者が外界について本当だと思っていることを正しく推測できるようになる「心の理論」を測定するために、（誤信念課題）がよく用いられ、（4歳以降）に獲得することが示されている。

しかし、この「心の理論」の前駆体の一つとして、（生後9か月）頃に成立するコミュニケーションが注目されており、保育者との（共同注意）を通じた触れ合いが基盤とされる。

問6 次の【事例】を読んで【設問】に答えなさい。

【事例】

Pちゃん（3歳、女兒）と保育士がやりとりをしている。

Pちゃん：Pちゃん きのう ダイオン ガオーって いったきた

保育士：ん？ どこに行ったの？

Pちゃん：パパと ママと Pちゃん チャパリクーパ！

保育士：あっ Pちゃん 昨日の日曜日にパパとママとサファリパークに行ったのね

Pちゃん：ダイオン ガオーって！

保育士：そうなんだ ライオンさんとお話したのかな？

Pちゃん：おにく どうじよって

きりんしゃん はっぱ どうじよしたの

保育士：Pちゃんがライオンにお肉あげたの？ すごーい

きりんさんには 葉っぱあげたのね

Pちゃん：もぐもぐ ごっくん

ダイオン ガオーって！

【設問】

このやりとりに関連した次の記述について、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A.子どもの過去の出来事や体験の断片的情報から、保育士は意味のある語りを組み立てている。
- B.子どもの発話に対し、保育士は拡充模倣をしている。
- C.発声するための器官が未発達の子どもは、発音しにくい音を他音で代用したり、音順を入れ替えたりしている。
- D.子どもは会話に参加することを通して、どのように語るのかを学んでいくことができる。

(組み合わせ)

A B C D

1 ○ ○ ○ ○

2 ○ ○ × ○

3 ○ × ○ ×

4 × ○ × ×

5 × × ○ ○

回答

1

解説

すべて適切である。

- A 会話5、6行目。子どもの過去の出来事や過去の断片的情報から、保育士は意味のある語りを組み立てている。
- B 会話7～10行目。子どもの発話に対し、保育士は拡充模倣をしている。
- C 会話3行目。子どもは、サファリパークをチャパリクーパと発音している。
幼児に特徴的な幼児音が見られる。
- D 子どもは保育士とのやりとりなどの会話に参加することを通じて、語り方を学んでいくことができる。

問7

次の文は、乳幼児の心理学的実験装置の記述である。この装置を考案した人物として正しいものを一つ選びなさい。

断崖があるように見える実験装置で、乳幼児が奥行を知覚できるか明らかにするために開発された。その後、他の研究者によって、乳幼児がなじみのない場面に出会い、どのように振舞ってよいか分からないときに、他者の表情や態度を参考にする社会的参照を確かめる装置としても用いられた。

1. ヴント (Wundt, W.)
2. キャッテル (Cattell, J.M.)
3. ハーロウ (Harlow, H.F.)
4. ギブソン (Gibson, E.J.)
5. ソーンダイク (Thorndike, E.L.)

断崖があるように見える実験装置で、乳幼児が奥行を知覚できるか明らかにするために開発された。その後、他の研究者によって、乳幼児がなじみのない場面に出会い、どのように振舞ってよいか分からないときに、他者の表情や態度を参考にする社会的参照を確かめる装置としても用いられた。

上記はギブソン（Gibson.E.J.）が実験した、「**視覚的断崖**」の記述である。

問 8 次の文は、高齢期の知的機能についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 高齢期の知的機能については、縦断研究やコホート研究によって新たな知見が示されてきている。
- B. 人生の問題に対処する能力である英知（wisdom）は、高齢期にも上昇する場合がある。
- C. 過去の経験や獲得した知識に基づく知能は流動性知能と呼ばれ、高齢期でも低下しにくい。
- D. 高齢期における知的機能の低下は、その機能を使わなくなるということが一つの要因となる。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	○
3	○	○	×	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	×

回答

2

解説

A. 適切な記述である。

B. 適切な記述である。

C. 不適切な記述である。

過去の経験や獲得した知識に基づく知能は結晶性知能と呼ばれ、高齢者でも低下しにくい。

D. 適切な記述である。よって正しい組み合わせは2である。

問 9 次の文は、胎児の発達に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

一般に在胎期間は (A) の間であるが、妊娠初期から超音波断層法により、胎児の発育状態や動きを画像で見ることができる。胎動を感じるようになるのは (B) からであり、これは我が子という感情を母親にもたせることになる。この頃になると胎児の聴覚も発達し、母親の声の強弱、抑揚などを感知していることが (C) として明らかにされている。そうした胎児期の経験が (D) として新生児期においても継続している。

【語群】

ア,妊娠20 週頃 | イ,妊娠37 週から42 週未満 | ウ,心拍数や胎動の増加 | エ,4 学習記憶
オ,妊娠30 週頃 | カ,妊娠27 週から32 週未満 | キ,胎児MRI 画像 | ク,聴覚記憶

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	イ	ア	ウ	ク
2	イ	オ	ウ	エ
3	イ	オ	キ	ク
4	カ	ア	ウ	エ
5	カ	オ	キ	ク

回答

1

解説

一般に在胎期間は妊娠37週から42週未満である。胎動を感じるようになるのは妊娠20週ごろからである。

この頃母親の声の強弱、抑揚などを感知していることが心拍数や胎動の増加として明らかにされている。

母親の声を聴くなどの胎児期の経験が、聴覚記憶として、新生児期においても継続している。よって正しい組み合わせは1である。

一般に在胎期間は（妊娠37週から42週未満）の間であるが、妊娠初期から超音波断層法により、胎児の発育状態や動きを画像で見ることができる。胎動を感じるようになるのは（妊娠20週頃）からであり、これは我が子という感情を母親にもたせることになる。この頃になると胎児の聴覚も発達し、母親の声の強弱、抑揚などを感知していることが（心拍数や胎動の増加）として明らかにされている。そうした胎児期の経験が（聴覚記憶）として新生児期においても継続している。

問 1 0 次の下線部 (a) ~ (d) に関連の深い用語を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ
選びなさい。

乳児は手をしゃぶったり、(a) 手を握ったままかざして見つめたり、また、声を発するといった行
動をしばしば繰り返す。乳児期半ばでは、(b) 興味や関心のあるものに手を伸ばす行動がみら
れる。また、手にもった物を振り動かすなど、(c) 物を介して同じ行動を繰り返すようになる。さ
らに、1歳頃になると、(d) ほしい物を手に入れるために様々なことをしてみるようになる。

【語群】

ア,ハンドリガード | イ,ハンドサッキング | ウ,第3次循環反応 | エ,第2次循環反応
オ,試行錯誤 | カ,暗中模索 | キ,クレーピング | ク,リーチング

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	ア	キ	ウ	オ
2	ア	ク	ウ	カ
3	ア	ク	エ	オ
4	イ	キ	ウ	オ
5	イ	キ	エ	カ

回答

3

解説

手を握ったままかざして見つめるのは**ハンドリガード**と呼ばれる。

興味や関心のあるものに手を伸ばす行動は**リーチング**である。

物を介して同じ行動を繰り返すことを**第2次循環反応**といい、目と手の協応が成立するようになる。

1歳頃になると、ほしい物を手に入れるために様々なことをし、**試行錯誤**を行う。

ハンドサッキングは赤ちゃんが手を口に入れて吸う動作のことである。

第3次循環反応は1歳頃から現れる。

クーイングは喃語の前に現れる発声である。

よって、正しい組み合わせは3である。